

男性と同じ土俵に立って！

銚子海上保安部

巡視船かとり機関士補



— 現在の仕事の内容はどのようなことですか？ —

巡視船「かとり」の乗組員として、茨城県東海村にある原子力発電所付近海域の警備や密漁事犯等の海上犯罪の取締、夏には九十九里浜一带のマリンレジャーに対する安全指導等の業務に従事しています。

また、私は機関科職員ですので上記の業務に加え、船のエンジンや発電機等の整備・点検等の船員としての業務も行っています。

— 海上保安庁に入った動機やきっかけは何でしたか？ —

大学時代に救急医療を学び、救急救命士の資格を取得したので、その知識が少しでも人のために還元できたらという思いと、海と船が好きという単純な思いが重なり、海上保安庁を希望しました。

— 海上保安庁に入って、印象に残っていることは何ですか？ —

○海上保安学校で・・・

元来機械音痴の私ですが、海上保安学校で機関について勉強を進めるにつれ、最初は単なる鉄の塊にしか思えなかった機関が、次第に生き物のように思えてきました。仕組みが分かってくると、たとえ油まみれになろうと仕事は断然楽しくなります。

また、海上保安学校時代に出会い、互いに支え合って苦楽を共にした同期は一生の宝です。彼らの存在は今の私の原動力であり支えとなっています。

○現場で・・・

私は現場に出て3年目ですが、巡視船「かとり」の搭載艇を操船しての行方方不明者の捜索、密漁事犯等に対する捜査活動、大時化^{おおしけ}で船酔いに耐えながらの航海当直、機関故障箇所の修理、船内生活における事務・雑用、各種訓練参加等、ここには書ききれない様々なことを経験しました。そのどれもが他の組織では経験し難いことであり、やりがいのあるものばかりです。

これらが経験できるのも、業務が多岐にわたる海上保安庁ならではのことだと思えます。

— これから海上保安庁を希望する人達に一言 —

○これから入庁を希望されるみなさんへ

船という特殊な環境は、女性にとって体力的にも精神的にも厳しい職場です。良い意味で男女差別はなく、女性にも男性と同等の仕事量が求められ、男性と同等に訓練を行います。しかしながら、多くの女性職員がその壁を乗り越え活躍していることも事実です。

男性と同じ土俵に立ち、バリバリ仕事をこなしたい！
そんなバイタリティに溢れる女性にはぴったりの職場ではないでしょうか。

